

JTU-HYOGO
兵庫高等学校教職員組合
日本教職員組合(日教組)

兵高教新聞

裏面紹介

◇ 近畿ブロック「母と女性教職員の会」
◇ 「人権教育ひょうご」春季学習会 他

神戸市中央区中山手通 4-10-5 神戸市教育会館内 TEL078-261-0829 FAX078-261-1094 E-mail:hyokokyo@pearl.ocn.ne.jp

発行人：西村恭介 編集：兵高教書記局

2/7 給特法改正法案閣議決定、第217回通常国会に提出

「学校の働き方改革の一層の促進と教員の処遇改善をはかる」として、「公立の義務教育諸学校等の教職員の給与等に関する特別措置法等の一部を改正する法律案」(給特法改正法案)が2月7日に閣議決定され、第217回国会(常会)に提出されました。また、給特法改正法案に加えて、環境整備に関する制度改正として、学校教育法、地教法(地方教育行政の組織及び運営に関する法律)、教育公務員特例法等の改正についても審議が始まります。

改正法案および2025年度教育予算等においては、学校の長時間労働を是正するための業務削減策や教職員定数改善について極めて不十分で、現場の切実な声を反映したものとは言えない内容です。改正法案等には次のような問題点があります。

◆働き方改革に関する改正法案

・「業務量管理・健康確保措置」については、自治体に丸投げであり、国としての施策は一切ない。学校の働き方改革の進捗状況は自治体財政等により地域間格差が広がっており、財源や人の配置の拡充など、国の責任においてすすめることが不可欠。また、依然として時間外在校等時間の上限を超えることへの歯止めがない。罰則規定など実効性を担保する仕組みが必要。

・政府予算案で目標として示された「5年で時間外在校等時間を月30時間程度に縮減」について、具体的な縮減策やロードマップが示されていない。

・3年後を目標とした勤務実態調査の実施、その結果に基づき給特法の廃止・抜本的な見直しを行うことを明記すべきである。

◆処遇改善に関する改正法案

・「教職調整額を4%から10%に段階的に引上げ、2026年から1%ずつ引き上げる」としている(給特法改正案)が、処遇改善は人確法にもとづいて給料、もしくは義務特手当の改善でおこなうべきである。

・教育公務員特例法を改正し、「義務教員等教員特別手当(義務特手当)について、校務類型(文科省令で定める基準を参酌して条例で定める校務の種類)に応じて支給する。その額は、校務類型に係る業務

◆新たな職に関する改正法案

・学校教育法を改正し、「新たな職(主務教諭)を置くことができる旨を新設する」としているが、「新たな職」については自治体判断により置くことができるものであることの確認が必要。

この他、「カリキュラム・オーバーロード」となり教職員のみならず子どもたちにも過大な負担を強いている学習指導要領の内容精選や授業時間数削減については一言及されておらず、部活動の地域移行の推進についても不十分で、働き方改革に資する内容とは到底認められません。教職調整額の微増と学級担任に義務特手当を加算(月額3千円程度を想定)する一方で、多学年学級担任手当の廃止、特別支援学級・特別支援学校教員の手当の減額を想定していることは、人財確保法(人確法)や給特法の趣旨を蔑ろにするものであり、財務省が従来から主張する人確法の廃止や教員特有の給与の一元化につながるものが危惧されます。

これらのさまざまな課題について、学校現場の実態を踏まえた議論を深めるためには、子どもたちや教職員の現状をよく知っている教育現場出身の国会議員(日政連議員)の存在が極めて重要です。

日教組では、引き続き学校の働き方改革を進め、長時間労働を正につなげるよう国会対策にとりくむと、院内集会を開催(WEB配信を予定)するとともに、国会での審議に学校現場の声を届けるための意見投稿フォーム(学校の働き方改革「意見投稿フォーム Ver.2」)のとりくみを行います(下記参照)。

組合員のみならず、ご意見を歓迎しています。*投稿は6月末日まで受け付けていますが、できるだけ4月中に多くのご意見をお願いします。

学校の働き方改革「意見投稿フォーム ver.2」
「学校現場の声を国会に届けよう！」



兵高教第39回定例中央委員会

とき 3月29日(土) 13:30~16:30
ところ 神戸市教育会館501号室

※各支部・専門部の参加体制確立をお願いします。
中央委員の登録および傍聴申込の締切は3月21日(金)17時です。

しゅんいち
みずおか俊一
教育、くらし、平和
希望ある未来を子どもたちに!



兵庫高等学校教職員組合(兵高教)は、《JTU 日教組》加盟の組合で、1989年に設立しました。
※「兵庫高教組」「兵高教組」「高教組」(兵庫県高等学校教職員組合)とは、関係ありません。

「人権教育ひょうご」春季学習会

2月16日(日)ラッセホールにおいて、「人権教育ひょうご」春季学習会が開催され、柳谷和美さん(「おやこひろば桜梅桃李」代表)をお迎えし、「人権教育としての包括的性教育～性暴力・虐待・DV 被害当事者の視点から～」と題して講演をしていただきました。講演内容は多岐にわたりますが、その一部を紹介します。

- ・性暴力・DV・虐待の被害者が、被害を訴えたり相談することがいかに困難であるか(男性の被害者はさらに厳しい)。
- ・性暴力被害を訴えた場合、被害者が責められる傾向にある。どんな理由があっても(たとえパートナーであっても)明らかな同意のない性的接触は、暴力であり、加害者が加害を「選んでいる」ことを認識してほしい。
- ・被害後のケアが十分ではなく、その結果被害者が無力感に苛まれ、自傷や自死、薬物依存、摂食障害などの逸脱行動や虐待経験の再演、性的な異常行動、パニック障害など自己崩壊につながってしまう。
- ・たとえ被害を訴えることができても、通院やカウンセリング等は被害者自身が探し、費用負担を強いられる現状では支援に繋がることすら非常に困難。
- ・年齢に合わせた性教育を行わなければ「子どもらしい子ども時代」を生きることも奪ってしまうことを知ってほしい。 など

「包括的性教育は人権教育」であり、年齢に応じた正しい知識を身につけることがいかに重要か、具体的にわかりやすくお話をしていただき、全ての参加者が理解を深めることができた学習会でした。

第32回 日教組近畿ブロック「母と女性教職員の会」

2月8日(土)ラッセホールにおいて、「子どもたちに平和な未来を」をテーマに近畿ブロック「母と女性教職員の会」が開催され、兵高教からは女性部を中心に5人が参加しました。

午前中の記念講演では「女たちの家から～六甲ウイメンズハウス開設までの30年～」と題して、正井禮子さん(認定 NPO 法人女性と子ども支援センターウイメンズネット・こうべ)より、30余年の活動のふりかえりや女性の視点から検証した災害時の諸課題等について、幅広くお話をしていただきました。大規模自然災害が繰り返し発生していますが、未だに避難所等でのプライバシー確保が十分ではなく、性被害も後を絶たない現状があります。行政の防災・減災対策や発災後の支援策の策定・運用は今も男性中心で行われていますが、こうした課題への対応のためには女性の参画が不可欠であることを、あらためて認識しました。

午後からは「共に生きる社会」「子どもと人権」「女性の生き方」の3つの分科会に分かれ、問題提起とそれに基づく議論が行われました。兵高教からは「女性の生き方」分科会で、近野悦子さん(一般社団法人ノンア・代表理事、東はりま特別支援学校卒業生保護者)より、「喜びや悲しみ、いろいろな出会いこそ人生の宝物」～双子の重度自閉症児と歩んだ20年～」と題して問題提起を行い、参加者みんなで意見を交わし、学習を深めました。



記念講演の様子

参加無料

高校生がつくる / 未来への架け橋

2025

3.16 日 13:30-16:00

場所: カナディアンアカデミー (兵庫県神戸市東灘区向洋町中4丁目1)

平和ってなんだろう？

兵庫県の高校生が平和を考える場所を作りました。微力ながら若者が未来への架け橋を作り、後世へと繋げます。

被爆講話

講師 貞清百合子 さん

6歳の時、爆心地から約1.5km地点の広島市楠木町(現在の西区)で被爆。神戸市灘区在住。神戸市原爆被害者の会副会長。現在はイベントなどで被爆体験の語り部活動をされている。

主催 高校生平和大使・兵庫「未来への架け橋」実行委員会
連絡先 高校生平和大使を支援する兵庫県実行委員会
住所: 神戸市中央区栄町通4-2-1
神戸中央郵便局内日本郵政グループ労働組合
兵庫連絡協議会気付
TEL: 078-958-6607

高校生による

パネルディスカッション

今高校生は何を考えているんだろう？
高校生が考える平和活動のあり方や、教育のすがたについて意見を共有します！



後援 フォーラム平和・人権・環境ひょうご
兵庫県原爆被害者団体協議会
兵庫県被爆2世の会
ろっこう医療生活協同組合
兵庫県教育委員会
神戸新聞社

※参加申し込み不要

第27代高校生平和大使兵庫活動メンバーのとりくみ

1月以降の高校生平和大使・兵庫活動メンバーのとりくみを紹介します。

◆神戸空襲戦跡フィールドワーク(「火垂るの墓」コース)

1月19日(日)午前、神戸空襲を記録する会の小城智子さんのガイドでフィールドワークを行いました。阪神石屋川駅に集合の後、東明神社の鳥居等に残る銃痕、火垂るの墓モニュメント(石屋川公園内)、御影公会堂の爆弾破裂痕、成徳小学校(野坂昭如さんが通った国民学校の後身)にある皇紀2600年碑等を見学し、それぞれの場所で当時の様子等を説明していただきました。途中、野坂さんが当時住んでいた家のあった付近を通り、米軍滑走路跡(JR 六甲道駅北側・山手幹線の一部)で解散しました。身近なところに残る戦跡を通して戦災について学ぶことができました。



◆高校生一万人署名活動

2月16日(日)午後、元町駅東口南側で今年初の街頭署名活動を行いました。高校生自らがマイクアピールを行い、街行く人に声をかけ、多くの方がたに協力いただき141筆の署名が集まりました。特に同世代の高校生や大学生、親子連れのみなさんが協力してくれたことが印象に残りました。



兵高教は、子どもたちの学びと教職員の生活に関わる情報を、迅速かつ正確にお届けします。